

〔バリダマイシン液剤〕

第17386号

性 状：緑色澄明液体

毒 性：普通物

危 険 物：—

有効年限：4 年

包 装：500 ml×20、5 l×4

バリダシン® 液剤 5

有効成分：バリダマイシンA…………… 5.0%

〔適用と使用方法〕

作物名	適用病害名	希釈倍数	10アール当り 使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
もも	せん孔細菌病	500 倍	200~700 l	7 日前	4 回	散布
すもも	黒斑病					
かんきつ	かきよう病					
稲	紋枯病 疑似紋枯症 〔赤色菌核病菌 褐色菌核病菌 褐色紋枯病菌〕	1000 倍	60~150 l	14 日前	本 剤：5 回 バリダマイシン：6 回 (育苗箱灌注は1回、 本田では5回)	散布
	もみ枯細菌病	300 倍	25 l			
	紋枯病					
稲 (箱育苗)	苗立枯病 〔白絹病菌 リゾクトニア菌〕	1000 倍	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌 約5 l) 1箱当り 希釈液 500 ml	は種時~ 発病初期	本 剤：1 回 バリダマイシン：6 回 (育苗箱灌注は1回、 本田では5回)	灌注
ばれいしょ	黒あざ病	200 倍	—	貯蔵前 又は 植付前	本 剤：1 回 バリダマイシン：7 回 (#1)	瞬時~10 分間 種いも浸漬
			種いも 100 kg 当り 2.5~3 l	種いも散布		
	青枯病 軟腐病	500 倍	100~300 l	3 日前	本 剤：6 回 バリダマイシン：7 回 (#1)	散布
きゅうり	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	800 倍	3 l/m ²	は種直後	1 回	灌注
キャベツ	株腐病 黒腐病 軟腐病			7 日前	5 回	散布
はくさい	軟腐病 黒斑細菌病	500 倍	100~300 l	3 日前	3 回	
なす	青枯病			前日	8 回	
いちご	芽枯病 角斑細菌病	1000 倍		収穫開始 14 日前	3 回	
だいこん	軟腐病	500 倍		21 日前	4 回	
たまねぎ	腐敗病 軟腐病			3 日前	5 回	
レタス 非結球レタス	すそ枯病 腐敗病 軟腐病			800 倍	7 日前	

作物名	適用病害名	希釈倍数	10アール当り 使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法	
しょうが	紋枯病	800倍	100~300ℓ	14日前	4回	散布	
みつば	立枯病			育苗期	本剤：1回 バリダマイシン：4回 (育苗期は1回以内)		
				移植後 但し 21日前	本剤：3回 バリダマイシン：4回 (育苗期は1回以内)		
にんにく	春腐病			5回	3ℓ/m ²		7日前
ふき	白絹病		—	植付時		本剤：1回 バリダマイシン：5回 (#2)	30分間 種茎浸漬
にら	葉腐病		刈揃え前 まで	3回		散布	
ねぎ	軟腐病	500倍	100~300ℓ	14日前	本剤：1回 バリダマイシン：2回 (#3)	株元散布	
	白絹病						
てんさい	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	400倍	6ℓ/m ²	は種時	本剤：1回 バリダマイシン：2回 (#3)	灌注	
			3~6ℓ/m ²	育苗中期	1回		
だいたま	葉焼病	500倍	100~300ℓ	7日前	3回	散布	
はぼたん	黒腐病	800倍					
西洋芝 (ベントグラス)	葉腐病 (ブラウンパッチ)	1000倍	1ℓ/m ²	発病初期	8回		
		500倍	0.5~1ℓ/m ²				

#1：種いもへの処理は1回、植付後は6回

#2：種茎浸漬は1回

#3：は種時の灌注は1回、散布及び株元散布は合計1回

⚠ 効果・薬害等の注意

- ボルドー液との混用はさける。
- 稲の苗立枯病に使用する場合、白絹病菌、リゾクトニア菌による苗立枯病には有効であるが、その他の菌による苗立枯病には効果が劣るので注意する。
- なす、ばれいしょの青枯病に使用する場合、本病の多発する圃場では、登録のある土壌くん蒸剤等との併用処理をする。
- ばれいしょの軟腐病に対しては効果が劣る場合があるので、他剤と輪番使用をするとより有効である。
- かんきつのかいよう病に対しては効果がやや劣る場合があるので、他剤と輪番使用をするとより有効である。
- レタス、非結球レタスに使用する場合、すそ枯病の防除を主体とし、多発生の腐敗病には効果が劣ることがあるので注意する。
- だいこんの軟腐病が多発するような条件ではやや効果が劣る場合があるので、なるべく早

めの散布をし、他剤との輪番使用をするとより有効である。

- ばれいしょの種いもに使用する場合は下記の注意を守る。
 - 切断した種いもを処理する場合、切断面が乾いた後に行う。
 - 種いも散布の場合は、種いもを床などに拡げ、全体が均一にぬれるよう散布する。
 - 処理した種いもはよく風乾してから植付ける。
- ふきに使用する場合は、種茎浸漬処理と植付後の灌漑を組合わせて使用する。
- 本田の水稲に対して希釈倍数300倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用する。
- トマト、さく（秀芳の力等）にはかからないように注意して散布する。（葉害）
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に葉害の有無を十分確認してから使用する。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。



安全使用上の注意



- 眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗する。（弱い刺激性）
- 使用の際は不浸透性手袋などを着用する。
- 公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域内に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。
- 処理した種いもは食料や動物飼料として用いない。

〔品目特性〕

- バリダジンは、紋枯病防除剤で、兵庫県明石市の土壌から分離した放線菌（*Streptomyces hygroscopicus* var. *limoneus*）によって生産される抗生物質バリダマイシンを主成分としています。
- 稲紋枯病をはじめとする、多くのリゾクトニア菌や、白絹病菌などの糸状菌（カビ）に対してすぐれた防除作用を発揮します。また、野菜・果樹の細菌性病害や稲「もみ枯細菌病」にも登録を取得しました。また、なす「青枯病」に生育期茎葉散布処理で登録を有する唯一の薬剤です。
- バリダマイシンは稲紋枯病菌や類縁の菌、並びに細菌に特有の酵素（トレハラーゼ）の活性を阻害し、菌体内に貯えられた糖トレハロースをエネルギー源としてのグルコースへの変換を抑制することによって、効果を発揮するというユニークな作用機構を示します。
- バリダマイシンを処理した植物体内では、抵抗性誘導に係る遺伝子の発現が観察されます。一方、バリダマイシンは、トレハロースを利用しない細菌性病害にも防除効果を示すことから、植物に対し、全身獲得抵抗性を誘導することが示唆されております。

（稲紋枯病）

- バリダマイシンは紋枯病菌の菌糸の生育を停滞させ、さらに病原性を喪失させます。また菌糸の一部に薬剤が付着すると同一菌糸上全面に薬効が波及するなど、特異的な作用を示します。従って病勢進展阻止力が特に強く、効果の持続性にもすぐれ、多発条件下でもすぐれた効果を発揮します。

（キャベツ：株腐病、レタス・非結球レタス：すそ枯病など）

- リゾクトニア菌や白絹病の菌糸に直接作用して速やかに効果をあらわしますので、病原菌が活動を始めた初期の散布または灌漑によりすぐれた防除効果を発揮します。

（にら）

- リゾクトニア菌が起因し夏期株養成期に発生します。下葉の黄化症状が認められたら直ちに株全体に十分量散布します。また高温多湿条件下で多発生するので、降雨後、直ちに散布します。散布した茎葉部は必ず刈り取り、その後伸长してくる茎葉部を収穫します。

細菌性病害

(なす・ばれいしょ)

- 生育期茎葉散布で、青枯病に登録を有する唯一の薬剤です。初発前、病原細菌の密度が低い早めからの散布で、なす体内での青枯病菌の増殖を抑制し、発病・病勢の進展を遅延させ、収量の減少に歯止めをかけます。

(もも・すもも)

- 体内の病原細菌が増殖する萌芽初期からの早めの散布で、よりすぐれた防除効果を発揮します。また、他剤とのローテーションによって菌量を低く抑えた中での散布も効果的です。

(かんきつ)

- 体内の病原細菌数が少ない感染初期からの散布で、病原細菌の増殖を抑制して防除効果を発揮します。また、他剤とのローテーション散布の一剤として、時期を選ばず散布可能です。

(キャベツ・はくさい・レタス・非結球レタス・にんにく)

- 葉内の病原細菌が増殖する結球初期よりやや早めの散布で、よりすぐれた防除効果を発揮します。

(たまねぎ)

- 葉内の病原細菌量が増加する肥大期よりやや早めの散布で、よりすぐれた防除効果を発揮します。

(だいず・えだまめ)

- 葉内の病原細菌数が少ない感染初期からの散布で、病原細菌の増殖を抑制して防除効果を発揮します。病原細菌は主に風雨によって葉に飛散し感染します。